

2021年3月12日（金曜）

全労金2021春季生活闘争ニュース・第14号

【全労金2021春季生活闘争統一スローガン】
今こそ全国の仲間と思いをひとつに！心は密に団結を！

組合員の総意で確立した要求にこだわりを持ち、 満額回答に向け最後まで闘い抜こう！

全労金2021春季生活闘争は、第三次交渉期間の最終日を迎え、統一回答期限日（3月16日）まで残り2日となり、交渉は大詰めを迎えています。昨日開催した「闘争委員長会議」では、「組合員の思いをWEBアンケート等で集約し、交渉で強く訴えている」「交渉状況を所属長等に伝えたいと、労組の後押しとなるコメントを引き出し、交渉材料としている」等の進め方に関する報告とあわせて、「金庫から満額回答を示す意向を引き出している」「満額回答ではないが、要求項目に対し、一定に応じる考えを引き出している」等、交渉の積み上げにより、前向きに受け取ることができる報告が複数ありました。その一方で、「新型コロナウイルス感染症の影響により来年度の事業計画の見通しが不透明」「現行の支給水準に課題認識を持っていない」「正職員と嘱託等職員は雇用期間も求める役割も違う」「目標の未達で要求に対する改善はできない」等の主張を繰り返し、労働組合の要求に応える姿勢を見せない対応も複数報告されました。

私たちは、新型コロナウイルス感染症が社会や経済に影響を与えていることを十分に踏まえたうえで、2021春季生活闘争で真に解決すべき課題を厳選し、組合員の総意で要求に掲げています。そうした要求に対し、金庫・事業体の取るべき姿勢は、新型コロナウイルス感染症の影響がある中でも、社会的なインフラ事業であるばかりか、勤労者の生活支援を第一線で担っている職員・組合員が、希望を持って社会的な役割のある労働金庫業務に邁進できる環境をいかにして作り上げるかを、労働組合との話し合いから見出すことです。仮に要求通りに回答ができないのであれば、「なぜ要求に応じられないのか」「新型コロナウイルス感染症の影響が続く中で、働き方の見直しや効率化が求められている職場実態に対し、職員の奮闘や今後への期待はどのように応えるつもりなのか」「労使共同で進めている『組織風土改革』に繋げるために、金庫・事業体は何をするのか」等、職員・組合員に丁寧に説明し、認識一致を図る姿勢を示すことです。

単組は、本日以降、闘争委員会や四役会議等を配置し、来週の最終交渉期間に臨みます。単組闘争委員会の交渉力の源は、組合員の要求に対する思いの強さです。単組が発行する春季生活闘争ニュースを職場集会等で読み合わせ、要求実現に向けた切実な思いを単組闘争委員会に伝え、組合員一丸となって、満額回答に向けて闘い抜きましょう！

※ 次号は3月15日（月）に配信予定です。

※全労金HP (<http://www.zenrokin.or.jp/>) もご覧ください！

以上